

東日本大震災・観光復興国際シンポジウムにおける特別メッセージ

UNWTO、WTTC、日本政府及び東北地方の各自治体は、2011年10月5日、日本国宮城県仙台市に集まり、同年3月11日に発生した東日本大震災により大きな被害を受けた宮城県、岩手県、福島県をはじめとする東北地方の観光復興について、広く情報を共有し、意見交換を行った。

宮城県、岩手県及び福島県では、激しい地震や津波、原子力発電所の事故等が発生したために旅行者が減少し、観光産業への深刻な影響が発生したことが報告された。また、被害が限定的であった青森県、秋田県及び山形県でも、主にネガティブな風評により、観光産業への大きな影響が発生したことが報告された。

一方、震災から7ヶ月近く経過した現在、東北地方の観光地は、太平洋沿岸の一部を除き、宿泊施設、交通施設を含め、旅行者の受け入れに全く支障がないレベルにまで着実に回復していることが報告された。東北地方は、豊かな自然や歴史、文化資源に恵まれた地域であり、各自治体は震災からの復興のために風評被害の払拭などに懸命に取り組んでいる。

世界各地の自然災害において様々な支援を行ってきたUNWTO及びWTTC、1995年の阪神淡路大震災により中心街の壊滅とその復興を経験した日本国神戸市神戸復興塾から、それぞれの経験の蓄積に基づき、震災からの観光復興について貴重なアドバイスが与えられた。他方、東日本大震災で東北地方の観光関係者が学んでいる経験や知恵は、世界中の国々にとって、極めて貴重なものとなることが認識された。

以上の内容を受け、我々は、被災地をはじめ東北地方の観光復興に関する正確な情報や知識を今後とも世界と共有することを通じて風評被害の一日も早い払拭を図り、東北地方及び日本の旅行者の回復・増加、さらにはアジア太平洋地域内外における国際観光のさらなる発展を図ることが重要であるとの結論に至った。

UNWTOは、その端緒として、2011年10月8日から14日まで韓国・ギョンジュで開催される第19回UNWTO総会の場において、以上の事実に言及を行うこととする。

以上の内容を、本会合の成果としての特別メッセージとして記録及び公表する。

2011年（平成23年）10月5日